



子ども大学学生新聞

第12号
子ども大学
かわごえ新聞部

「宇宙のなぞを調べるのが魅力」

阪本先生「日本の宇宙科学の今とこれから」

一月十八日、東京国際大学第二キャンパス2311教室でJAXA(宇宙航空研究開発機構)宇宙科学研究所の阪本成一教授による「日本の宇宙科学の今とこれから」という授業がありました。出席者は四年生二十九人、五年生四十八人、六年生四十七人の計一二四人。

阪本先生によると、宇宙は科学者にとつて、とても魅力的なのだそうです。だからこそ苦労があつても、投げ出さずに形になるのだ、と言っていました。また、地上からの宇宙観測では、曇りのときは出来ないなどの課題があります。なので、



宇宙に行つて実験をするのだそうです。しかし、暗かたりして宇宙の見えないところを見る時には、温度で色が変わる赤外線で見るといいのだそうです。それは、日常で役に立つこともある、と言っていました。(浅野壱子記者〓杉下小5年)

月の裏側はツルツル

二時間目は「探査機で探る宇宙」という授業がありました。火星はとっても小さな惑星です。しかし、月はその半分しかありません。月は軽すぎるから引力が弱く、大気を繋(つなぎ)止められませんが、

月が地球を回っている理由…それは地球の引力に引きつけられているからです。地球に隕石が落ちて、凹んだあとにはすぐになおります。

しかし、写真右下の通り、月は表は凸凹ですが、裏はツルツルです。そう、月は表と裏で違うのです。しかし、月の裏に人が着陸するのは困難です。

JAXAでは、いろいろなローバー(月面探査車)を作りました。タイヤが五つある車輪型、キャタピラ型、



よげられない、は転んだら起きるのことができない。

そして、ロボットができると必ず実験をします。その距離はおよそ162km。東京から伊豆(静岡県)くらいです。

先生はドラえもんのようなロボットが欲しいと言っていました。

「はやぶさ」の話をありました。トの一番上の部分です。

この「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」を見つめました。(その後の話は、冊子「子ども大学かわごえ」4号にJAXAの的川先生の授業がのっているので、お買い求め下さい)

なぜ日本がアメリカよりも早く「イトカワ」探査に成功したのか。それは、だれもがやっていないことに大胆に挑戦したから、仕事への愛、技術より根性(あきらめない)、失敗から新たな技術を学ぶ、失敗したら原因を追究し、そこから学ぶ、みんなの意見を聞く、リーダーが全てを把握する…この七つだそうです。

「二〇一四年度中に「はやぶさ2号」が打ち上げられます。その打ち上げを見に行つてみたいですね。(長坂星名記者〓高階北小6年)

☆阪本先生へのインタビュー

「中々のエンジニアを見て興味もつ」

Q なぜ、このテーマを選んだのですか。
A 自分が天文学者だから。宇宙の専門的な研究をしているので、そのことを知ってもらいたかったから。

Q なぜ宇宙に興味をもったのですか。
A 中学三年のとき、テレビ「コスモス」に出ていたカール・セーガンという人を知って、その人が「宇宙は未知海にたとえると、自分たちはまだ砂浜で水遊びをしている程度のもの」と言っていて、すごい人だなあと、思、それを解くチームに入りたいと思つたからです。(斉藤和泉記者〓大塚小6年)

Q このテーマで、みんなに何を伝えたかったのですか。
A 「はやぶさ」のことです。なぜ成功したかや、失敗をおそれない心を知つてほしかった。

Q これからは、どういう研究をするのですか。
A アルマ(南米チリにある世界最大級の電波望遠鏡)を使って、星がどうやって生まれるかを調べたいですね。

Q 宇宙映画などに出てくるように、星や惑星の位置はバラバラですか？
A バラバラになったのがいっぱいあります。「ゼログラビティー」という映画は心に残っていて好きだけど、「本当は星の位置がちがうのに」と考えてしまつた。(堤彩夏記者〓大

塚小6年)

Q 「はやぶさ」のことです。なぜ成功したかや、失敗をおそれない心を知つてほしかった。

Q これからは、どういう研究をするのですか。

Q アルマ(南米チリにある世界最大級の電波望遠鏡)を使って、星がどうやって生まれるかを調べたいですね。

Q 宇宙映画などに出てくるように、星や惑星の位置はバラバラですか？

塚小6年
学生の感想

◇霞ヶ関東小6年・石井葵さん

Q 今日の授業はどうでしたか？

A とてもわかりやすく楽しくかったです。

Q 今日の授業で一番印象に残ったのは何ですか？

A 月の裏側がクレーターがなくてすごくボコボコしていて、とてもすごかった。(浅野玲子記者 杉下小5年)

川越二小4年・澤井崇君

Q 今日の授業で楽しかったことは？

A 科学者が宇宙をみ力的に思っていることです。

Q 授業のどこがおもしろかったですか。

A ミニミニ型ロボットです。(山口航記者 中央小5年)

記者の感想

◇宮本愛音記者 鶴ヶ島一小6年「ロケットをとばすのにかかる費用や、とばすまでのみちのりがよくわかり、とても大変なんだなと思いました」

◇土田真由香記者 山田小6年「宇宙の授業で月のことや太陽のことなどが分かったので、よかったです。宇宙には前から興味をもっているので、宇宙のことをたくさん知れて楽しかったです。」

◇小島未来記者 福原小5年「テレビで宇宙の話が出てくるけれど、それにはたくさんの方がかわって実験をしたり、多額の打ち上げ費用がかかっているからこその話なんだなあと、あらためて思いました。あと、阪本先生の話で心に響いたのは、失敗することもあるけれど、それをおそれずに、大たんちようにせんしたということでした」

◇増田夢実記者 名細小4年「私は宇宙のことについて知らないことだらけでしたが、先生の授業でいろいろ教えてもらって、不思議だなあと、ワクワクしました。宇宙の話聞くのは、とても楽しかったです」

川越こどものまち

「ミニかわごえ 2013」

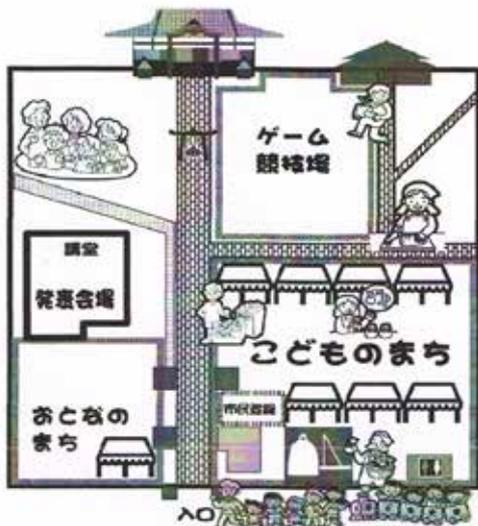
3月15日(土) 16日(日)

蓮馨寺境内で開催

市長の選挙もあるよ

開催日は3月15日(土)と16日(日)。会場はいつもの蓮馨寺境内です。開催時間は10時から16時まで。

「こどものまち」は子どもが主人公になってつくる「まち」です。蓮馨寺の境内にたくさんテントが立てられ、公共施設やお店がならびます。「こどものまち」の市長さんを選びます。「こどものまち」の市長さんを選びます。「こどものまち」の市長さんを選びます。



びます。

「市民」になりたい子(小学生)は、「まち」の入口の「市民登録所」で入場料500円(1日)を払います。そして「職業紹介所」に行くと、やってみたい仕事を選び、そのお店で働きます。1時間働くと100コエドの給料(お札)がもらえます。100コエドのうち20コエドを税務署で税金としておさめ、あとはお店で食べたり、飲んだり、ゲームをしたり、ものづくりを楽しんだりします。

食べ物屋さんには、カレー、うどん、そば、ポプコーン、クレープ、フライドポテト、焼きそば、おでんなどが予定されています。ゲームは輪投げ、魚釣り、ボウリング、キャラオケなど。ものづくりコーナーでは、飛行機作り、看板作り、パンケーキ作り、七宝焼き、コースター作りなどをします。アクセサリーやネイルサロンなどのおしゃれの店、外国語学校、絵画教室も開きます。ミニSLも走る予定です。

「まち」の情報を伝えるために、新聞社や放送局も開設します。新聞社は子ども大学新聞部が中心になって号外を何回か発行します。みなさん、お楽しみに！(小雨決行)

ポスターやコエドのデザインに取り組んでいます

「ミニかわごえ実行委員長・土田真由香さん(山田小6年・新聞部)の話」

「ミニかわごえ実行委員会」は毎週土曜日に蓮馨寺で、やりたいお店を決めたり、ポスターを書いたり、「コエド」(お金のデザイン)を考えたりするので、四十人くらいが集まっています。三月十五日、十六日のミニかわごえを楽しく遊び遊べるように、実行委員ともども、がんばっていますので、楽しみにしていてください。

当日は市長せんきよがあります。市長には土田莉子さん(山田小4年)と福岡礁君(新宿小6年)が立候補していますので、みなさん、清き一票をおねがいします。